

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		札幌市みかほ整肢園				公表日	2026年 3月 25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		クラスでの活動だけでなく活動内容やグループによって部屋を分けるなどの工夫を行っています。	今後も登園人数によって部屋を分けるなどの対応を行っています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準配置以上に看護師を多く配置しています。	次年度もさらに指導員や看護師を多く配置します。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		絵カードで1日の活動の流れをクラスに貼っています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		カーペットの消毒や手が触れる箇所の消毒や部屋の清掃は毎日行っています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		発熱時など別室対応をする時に使える部屋があります。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		クラス会議やケースカンファレンス会議等で方針、目標を意識した保育の計画や振り返りを行い、職員間で共有しています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職種毎に会議を行い、日々の支援を振り返って業務改善に努めています。週1回のグループスーパービジョンや個別スーパービジョンの中で良かったことやさらによくするためにどのような支援を行ったらよいか話し合いを行っています。法人全体の業務改善委員会に参加して業務を見直しています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		昨年度から第三者による外部評価を行っています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修計画に沿って研修を行っていました。また、必要に応じて随時研修を追加で行い、施設内だけでなく施設外の研修にも積極的に参加して職員の資質向上に努めています。職種毎の研修や、研修後の伝達研修の機会を設けています。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに公表しています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者と定期的に面談を行い、ケースカンファレンス会議やリハカンファレンス会議で共有し児童発達支援計画作成に活かしています。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		利用時の聞き取りや面談を通して保護者のニーズを確認し、保育士やリハビリ職員、看護師など多職種で連携しながら計画を作成して評価を行っています。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		定期的にクラス担任とリハビリ職員とケースカンファレンス会議を開き、目標設定と振り返りを行っています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ケースカンファレンス会議の内容を踏まえて設定しています。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育士やリハビリ職員など多職種で連携してプログラムを立案しています。行事も保育職員だけではなくリハビリ職員も連携して計画の立案を行っています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		朝の会、ふれあい遊び、リズムは日課として行い、月案に沿って年齢や発達に合わせて保育の内容を工夫しています。また、季節に合わせた活動を取り入れています。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		1人1人の発達に合わせて個別に対応しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日体制表を作成し、リーダー・サブリーダー・アシストの役割分担を明確にして打ち合わせの中で確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動後には振り返りを行い、さらに良くするためにどうしたら良いのか話し合っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		病院受診時など必要に応じて担当職員が同行しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて保健センターや児童相談所等関係機関と会議を開き、情報共有をして連携をしています。医療面では病院受診同行や引継ぎ書で連携しています。	
	26	併利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて併行通園先の幼稚園や保育園に訪問したり、訪問して頂いて情報共有を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前には小学校と連携して引継ぎを行い、その後も適宜情報共有を図っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		札幌市児童発達支援研究会や各研修会等の機会を通じて、地域連携や発達支援の内容について働き掛けています。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		年間で計画を立てて外部研修にも参加したり、コンサルテーションを受けています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会や子ども部会の研修会に参加しています。また東区子ども部会も運営委員として出席しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の保育園と交流会を開きました。	継続して地域や保育園とも交流を図っていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		個別懇談やクラス懇談を行っています。単独通園時には連絡ノートや送迎時または必要に応じて電話で1日の様子を伝えています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年4回の子育て講座やペアレントトレーニング、各職種からの勉強会を行いました。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や要望に応じて適宜個別に説明しています。また、運営協議会の中でも施設運営や活動報告、支援プログラムについて説明を行っています。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		各クラス毎やクラス全体での懇談を月1回、親子発達支援を年3回行い、困り感などについて話をする場を設けています。必要に応じて個別面談も行っています。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母会のサポートを行いました。また、座談会や学習会等、月1回程度保護者が集まる機会を設けています。夏祭りでは兄弟児にも参加の声掛けを行いました。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		電話相談も含めて、保護者の相談は常に受け入れています。日中一時支援事業、ヘルパー、ショートステイ利用により保護者の負担軽減を図っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		がくぷりによるお便りお知らせ、ホームページのブログ等で活動をお知らせしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報を保管している書庫に鍵をつけて管理をしています。また、送迎時にも個人情報の持ち出し簿にチェックをしています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		日々の様子を送迎時や連絡ノートに記載して個別に伝えていきます。活動の中で意思伝達装置を使用して表出手段の共有をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		運営協議会の時に町内会の方にも参加して頂き、パワーポイントにより説明を行いました。また、町内会の懇談等や連合町内会の運動会に参加しました。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		火災や地震等を想定した避難訓練を月1回実施しています。また、各マニュアルを玄関に掲示し、必要に応じて更新しています。不審者対応マニュアルも作成し、年1回以上練習しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、非常事態を想定して自家発電機の運転やエアーストレッチャーを用いて練習を行いました。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用前に保護者からの聞き取りを行い、薬の説明書のコピーを頂いて対応しています。また、かかりつけの医師の指導のもとに発作時対応マニュアルを作成し、練習を行って対応しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		かかりつけの病院で診断書を提出していただき、指示に基づいて食事の提供をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		自家発電機を月1回以上稼働して方が一の時にも対応できるように準備しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		月1回安全委員会に参加しています。朝の打ち合わせでヒヤリハットを報告し、改善点を共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎月委員会に参加し、虐待防止マニュアルや研修会を通して適切に対応しています。毎週水曜日法人内で統一したテーマに基づいて朝の打ち合わせでスキル練習を行っています。職員の落ち着いたプランを掲示し、助けを求める練習や助けに入る練習を行っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		事前に保護者に説明をした上で児童発達支援計画や日誌、記録に記載をしています。		